

甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和 2年 2月 4日 (火) 作成

校長 「 金子 浩 」 記述者 職名(教頭)「 本田 司 」

学校教育目標 「楽しい学校(楽校)の創造 -やる気 こん気 げん気-」

学校経営方針

- ・「生きる力」をはぐくむ、教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ、わかって楽しい授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い、「豊かな心」をはぐくむ、居心地のよい学校(集団)の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」をはぐくむ、健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

1 全体評価

○自己評価の結果は、高い水準を維持できている。

54設問中、肯定的評価(A・B回答)が100%となったのは、38設問であった。全設問を通してD回答は0%となっており、否定的な評価は減じている。さらに、52設問において、肯定的評価が90%以上であることから、教育活動全般に応じて、教職員が共通理解を図りながら、教育活動を行っていることが表れている。

児童アンケートの結果では、23設問中(勉強時間・就寝時間・読書時間の設問以外)20設問において、肯定的評価(A・B)が80%以上である。また、「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」については、99.1%で肯定的評価の最高値を示している。D回答とした児童の割合も、全設問において5%以下となっている。これらは、昨年度と同様な傾向であり、子供たちは継続して安定した学校生活を送っている。

保護者アンケートの結果では、24設問中(睡眠時間・読書時間の設問以外)17設問において、肯定的評価(A・B)が80%以上である。D回答とした保護者の割合も、全設問において5%以下であり、児童アンケートと同様に学校の教育活動については、高い評価を得ている。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

8設問全てにおいて、肯定的評価(A・B)が100%であり、教職員が一丸となって学校教育目標の実現に向けて努力している。学校教育目標・学校経営方針・評価が一体化されており、教職員がそれに従い教育活動を行い、具体的行動目標を意識して実践していることにより、達成できている状況にある。

達成状況

番号	質問内容	A		B	
		とてもそう思う		そう思う	
		回答数	回答率	回答数	回答率
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	26	78.8	7	21.2

	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	23	71.9	9	28.1
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	26	78.8	7	21.2
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	21	65.6	11	34.4
5	あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	18	54.5	15	45.5
6	あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	15	46.9	17	53.1
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	20	60.6	13	39.4
8	あなたは、児童の具体的行動目標を意識して教育活動を行っている。	21	65.6	11	34.4

改善策 高い水準で達成できている状況の中、課題を挙げるならば、「6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」のB回答がA回答を上回っていることである。P→D→C→Aサイクルの視点は教職員に定着しているので、評価・改善を短いスパンで行っていく体制の構築と意識の高揚を図るように、学校組織として取り組んでいく。

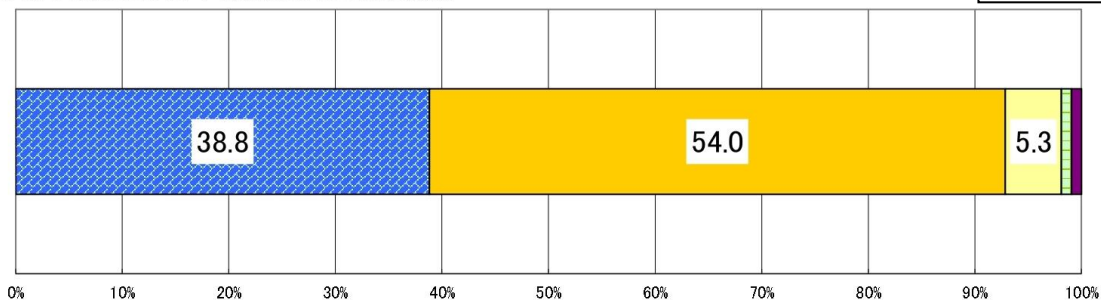
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

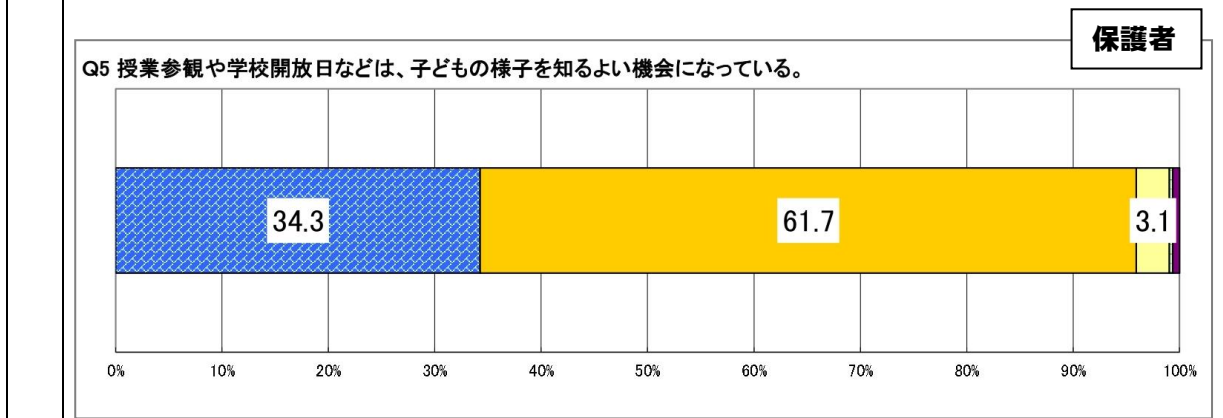
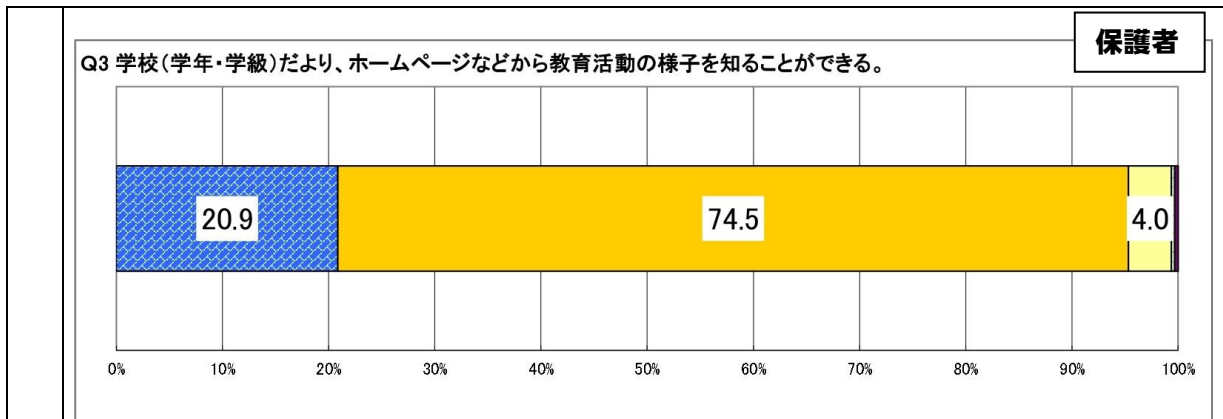
達成状況 11設問中8設問において、肯定的評価（A・B）が100%である。「2 あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」「5 あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。」「9 あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。」については、肯定的評価は100%でなかったが、いずれも90%前後の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。

保護者アンケートからは、「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」92.8%、「3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」95.4%、「5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。」96.0%の肯定的評価を得ており、保護者における学校運営に関わる状況も満足できるものであると捉えられる。

Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。

保護者



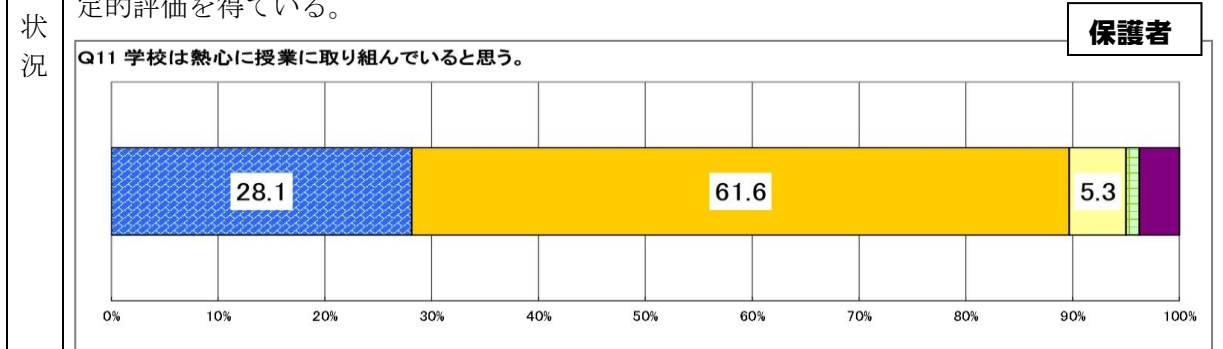


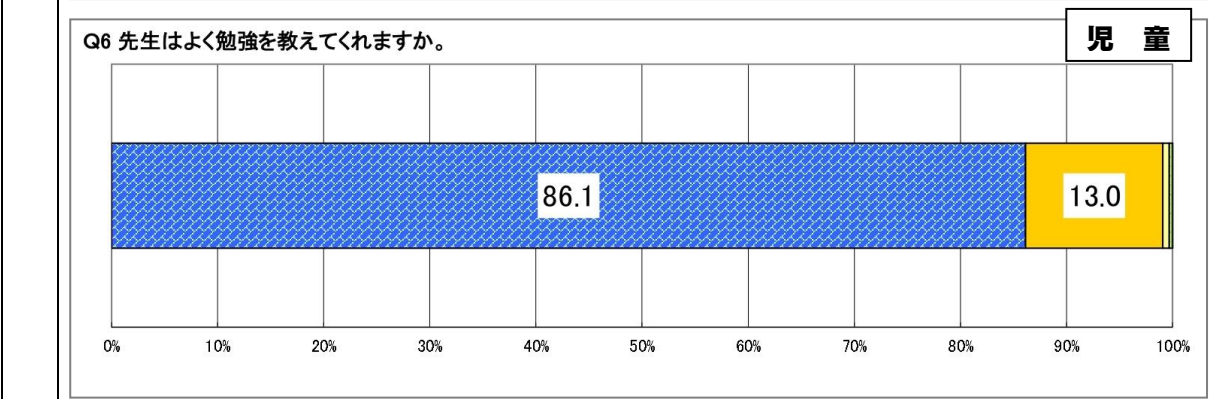
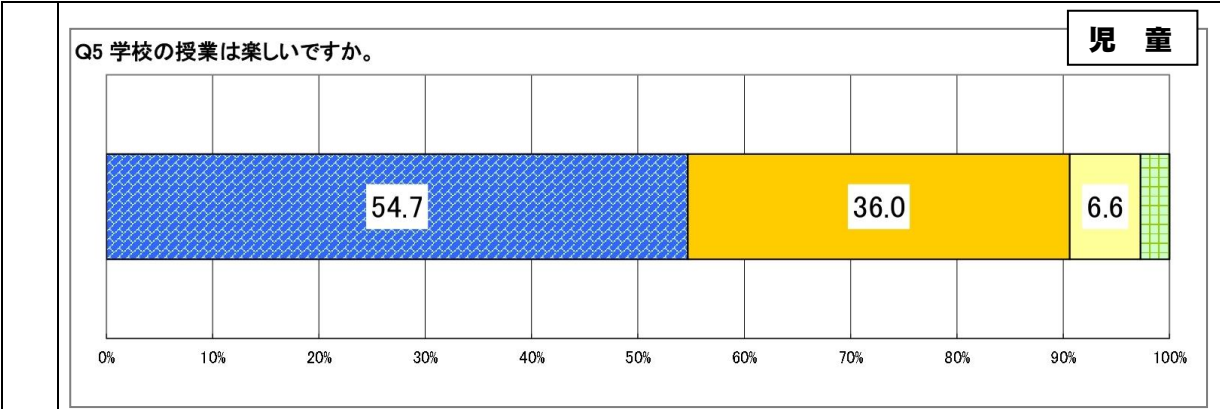
改善策 「9 あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。」については、肯定的評価が87.9%である。インクルーシブ教育システムの構築に向けての体制は整ってきているが、日々の教育活動において特別な配慮を必要とする子供たちが増加する中で、対応したくもできない教職員の胸の内の表れと考えている。学校としても、教職員の校務分掌の見直しや対応体制の工夫を行い、より機能的に行われるように努めていく。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

10設問中6設問において、肯定的評価（A・B）が100%である。残りの4設問においても全てが90%以上の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。今年度の校内研究では、「確かな学力と豊かな人間性の育成」を研究主題として、「わかる喜び、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり」を目指して授業改善に取り組んできている。研究を深め、授業力を高めるとともに、日々の実践に真摯に向き合っている。

達成状況 保護者アンケートでは、「11 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う。」の肯定的評価が89.7%と、昨年度から1.1ポイント減少してはいるが、90%近くの高い評価を得ている。また、児童アンケートからも、「5 学校の授業は楽しいですか。」90.7%、「6 先生はよく勉強を教えてくださいませんか。」99.1%という昨年度とほぼ同様の高い肯定的評価を得ている。

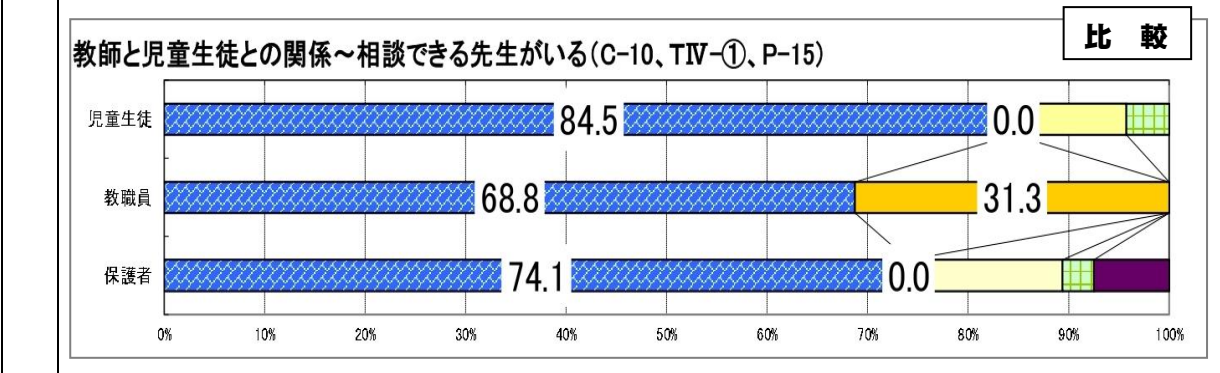


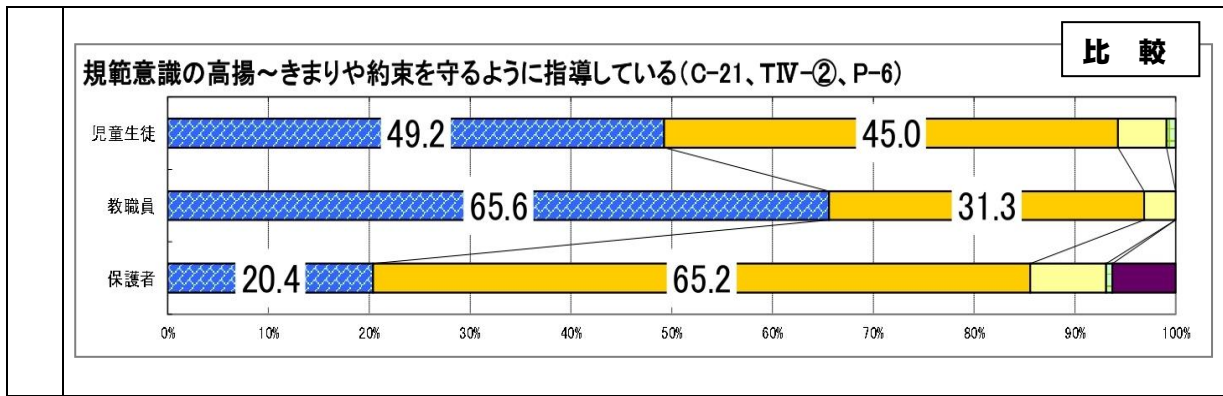


児童アンケートでは、「9 授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」の肯定的評価は77.2%、「11 授業中に質問や意見を言っていますか。」の肯定的評価は68.4%であった。授業は楽しいと感じており、先生もよく教えてはくれるが、子供たちが自ら質問や意見を積極的に言うことには課題が見られる。したがって、校内研究を柱に実態を捉えどのような取組が有効か研究し、日々の学習指導において、子供たちがわからないことを聞いたり、考えや意見を言ったりできるように授業の工夫を進めていくようにする。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

8設問中6設問において、肯定的評価（A・B）が100%であり、昨年度と同様に達成状況は高い。「1 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。」については、今年度100%を達成しており、全教職員が組織的に生徒指導に努めている。保護者アンケートでは、「6 学校では、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」において、肯定的評価が85.6%となり昨年度並みの高い評価を得ている。児童アンケートでは、「10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の肯定的評価が84.5%となり昨年度から3ポイント上昇している。前述通り、教職員が児童理解に取り組んでいる成果であると考えられる。

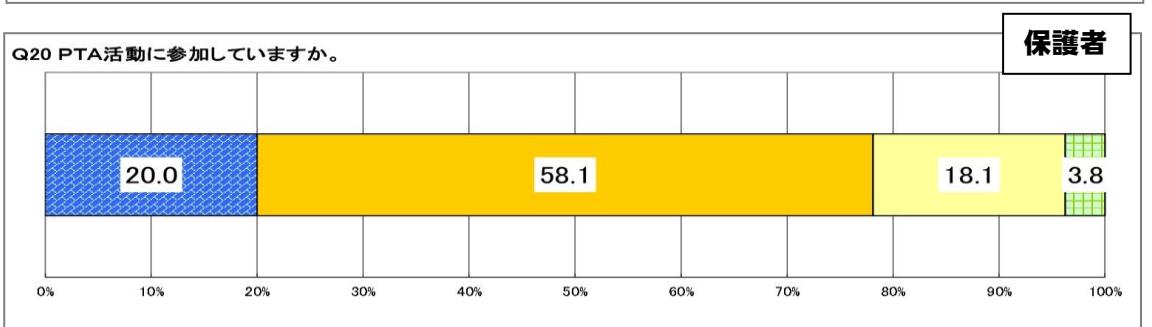
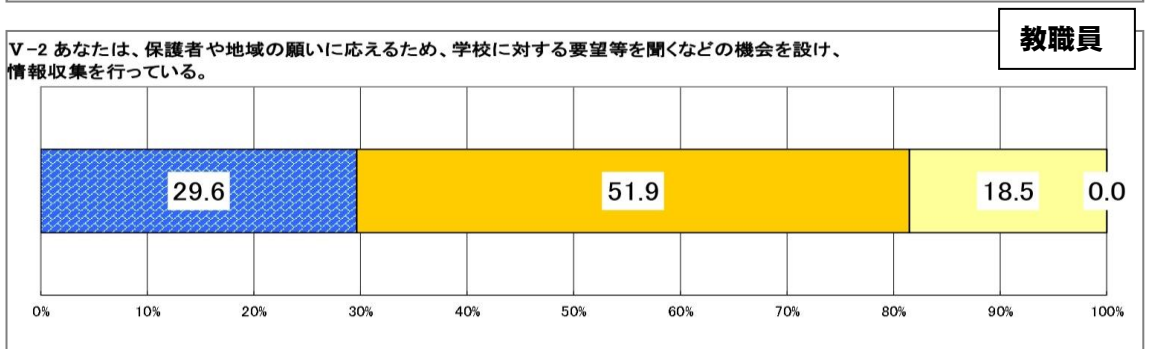
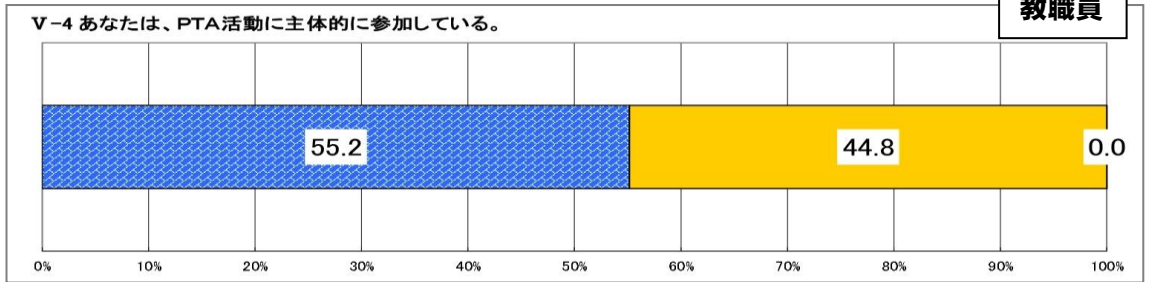




改善策
 生徒指導において、子供たちと教師との関係も良好である。これからも、業務改善を進めて子供たちと向き合う時間を確保し、相談のしやすい環境づくりに努めていくようにする。
 また、子供たちとのふれあいの中から、生き方教育にアプローチしていくように努めていきたい。

V 地域との連携について

達成状況
 「4 あなたは、PTA活動に主体的に参加している。」を含め、9設問中4設問で肯定的評価(A・B)が100%であった。その他の設問においても肯定的評価は高かったが、「2 あなたは保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」については、C評価の「ややそう思わない」が18.5%を示しており、改善していく必要がある。
 保護者アンケートでは、「20 PTA活動に参加していますか。」の肯定的評価は、78.1%であり、昨年度と同程度の水準を維持している。

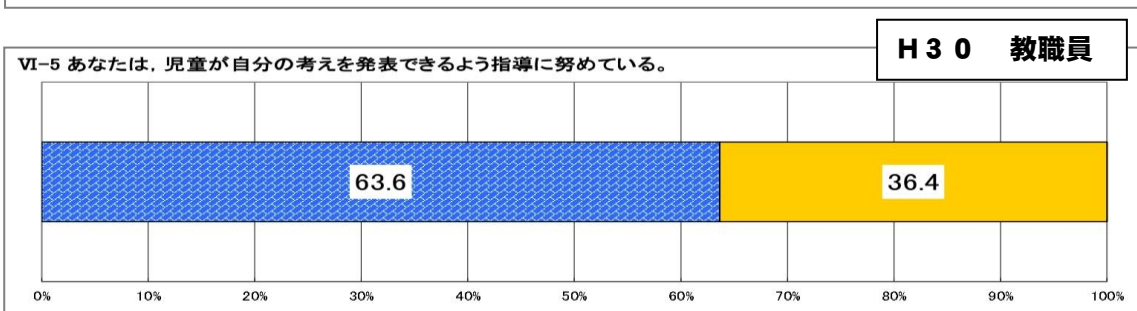
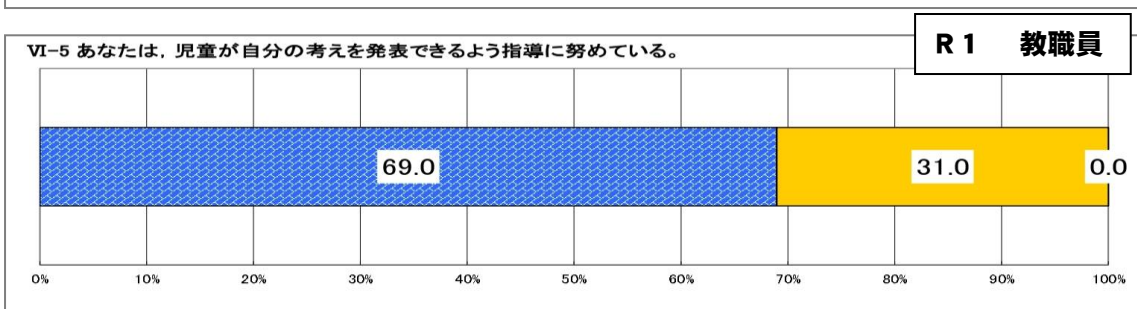
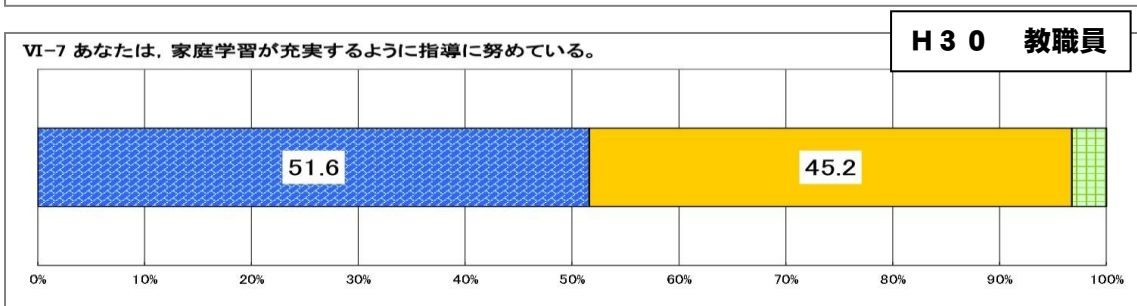
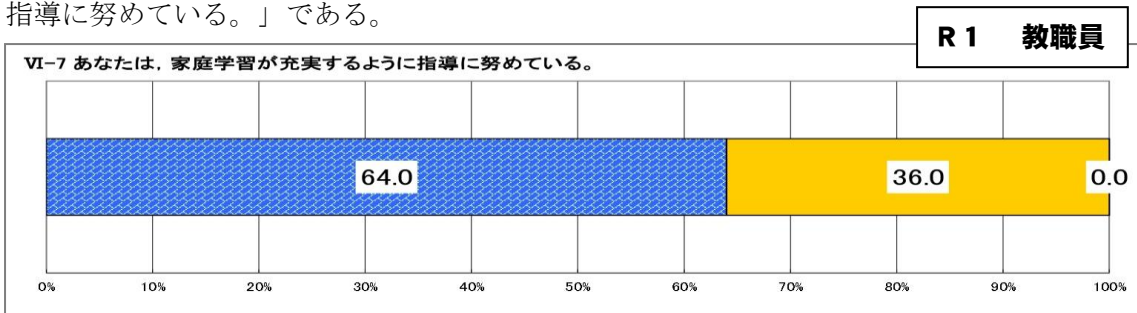


改善策 「2 あなたは保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。」については、学校としては機会を設けて情報の共有に努めているが、学年・学級レベルで改めてそのような場を設定することは難しい。したがって、学校が要望等を聞く機会を設定した際に、その活用を促し、常に保護者や地域の願い等が学年や学級に伝わる体制を構築していく。

VI 学校の特徴に関して

達成状況 昨年度8設問中3設問で肯定的評価（A・B）が100%となったが、今年度は6設問で達成することができた。「7 あなたは、家庭学習が充実するように指導に努めている。」においては、A評価が64.0%と昨年度より13.4ポイント上昇しており、「5 あなたは、児童が自分の考えを発表できるよう指導に努めている。」においても、A評価が69.0%と昨年度より5.4ポイント上昇している。教職員が協働して取り組んでいることが認められる。

肯定的評価が100%とならなかったのは、「1 あなたの学校は、児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。」と「8 あなたは、子どもたちに食育を生かした給食指導に努めている。」である。



改善策	<p>挨拶についての取組は、教職員の肯定的評価を100%にするように指導を行い、家庭からの協力を働きかけていく。また、子供たちにおいては、児童会活動の取組や小中連携の挨拶運動によって、挨拶が広がっていくようにする。</p> <p>食育については、カリキュラム・マネジメントの視点から改善を図り、日常的指導では栄養士と担任が協働して食育の推進をしていく。</p>
-----	--

3 まとめ

<成果>

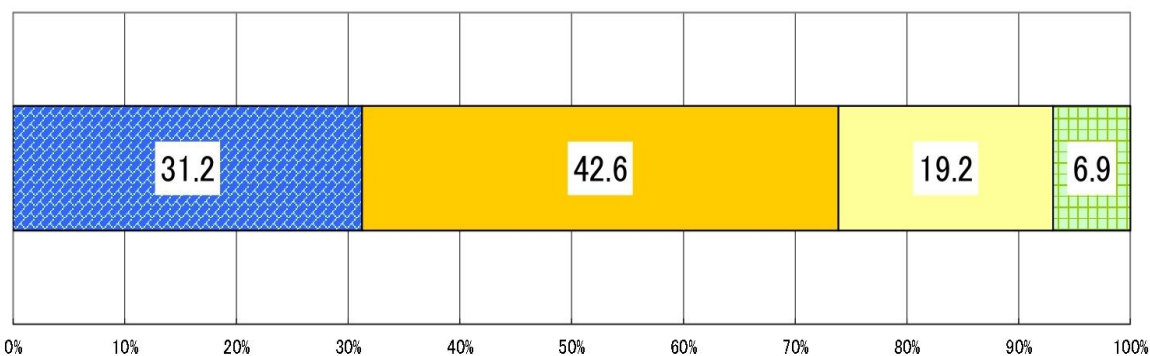
- ・過年度の学校評価の課題を生かし、具体的な取組方針を立てて取り組んできている。学校教育目標の実現に向けて確実な歩を進めており、教育活動の水準が向上してきている。特に、教職員が組織的に取り組んでおり、その成果が子供たちや保護者にも反映されている。これからもさらなる高みを目指し、取組を継続していく。

<課題>

- ・児童・保護者アンケートを含め努力していく事項としては、学力に関わる内容が挙げられる。児童アンケートの「9 授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。」や「11 授業中に質問や意見を言っていますか。」については、Ⅲの学習指導の改善策の項においても触れているが、肯定的評価の向上に向けて取り組んでいく。また、「学習時間」や「読書時間」については、4人に1人が目標の時間に達しておらず、読書量も少ない状況がある。教職員の授業力向上に向けて研修・研究を深め、学校・保護者・地域が連携・協働する体制を推進していき、子供たちが実践できる環境を整え、改善を図っていく。

児童

Q13 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。



児童

Q19 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。

